(16)

氏名（生年月日）　大塚　幸子（オオツカ　サチコ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与番号　乙第 150号
学位授与の日付　昭和48年5月18日
学位授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**先天性心疾患の自然史に関する病理解剖学的研究**
論文審査委員　（主査）教授　梶田　昭
（副査）教授　今井　三喜，教授　広沢弘七郎

論文内容の要旨

研究目的

先天性心疾患の自然歴は，第1に，心・血管体制の異常がその他の臓器系の偏りといかに形態的，機能的に結びついているかという理論的な興味，第2に，この疾患の適切な治療対策の前提という実地的な関心に基いていくつかの研究がなされてきた．著者は，この疾患による自然死例の病理解剖学的な検討により，その破綻の様式を解明し，自然歴を明らかにする一助とせんとしてこの研究を行なつた．

研究方法

東京女子医科大学第2病理学教室において行なつた先天性心疾患の剖検例 272例の病歴を調査して，外科手術を行なつた例，なんらかの検査ないし治療によつて明らかに経過が修飾されたと思われる例を除き，自然死例とみなされる73例を選んだ．この心・血管標本を再検討した上，肺動脈弁口閉鎖症11例，ファロー四徴症5例，心室中隔欠損症19例，肺静脈還流異常5例，動脈管開存＋大動脈 coarctation 6例，大血管転位7例，心内膜床欠損症5例，計58例についてその諸臓器変化（とくに肺・肝）を組織学的に検索し，心・血管病変との関連を検討した．組織学的手技としては通常のマッソン・トリクローム染色の他に，肺標本についてギームザ染色，グラム染色を施こし，細菌感染の有無を検索した．

研究成績ならびに結論

(1)　心室中隔欠損，二次孔の開存，動脈管開存は58例中それぞれ41例，14例，18例に認められた．一般に二次孔は生後5カ月まで，動脈管は生後2カ月までの例で開存が多く，これを過ぎると年令と無関係に開存例がみられる．心室中隔欠損は，年令とほとんど無関係に存在すること，その頻度の高い点から，先天性心疾患の中軸的な所見をなすものとみなされる．ファロー四徴症，心室中隔欠損症では，二次孔，動脈管は閉鎖するものが多く，肺動脈弁口閉鎖症ではこれが開存する傾向を示す．肺動脈弁口閉鎖症において，肺血流を動脈管に依存する形は6カ月以上の生存が困難であり，気管支動脈流床の発達に対する形成刺激の不足を示唆している．

(2)　各群を通じて，肺に種々の程度の拡張不全，巣状の形をとる浮腫，出血を示す例が多い．フィブリン，好中球を混える多彩な滲出像はむしろ稀で，比較的年長例で認められた．肺標本の上で，細菌を染色的に証明することは58例中4例でのみ成功した．いずれも，細気管支腔を含めて滲出の認められる，いわゆる気管支肺炎の像を示すものにおいてであつた．

(3)　肺動脈弁口閉鎖症，肺静脈還流異常，動脈管開存＋coarctation などでは，肝類洞の拡張を主徴とする肝のうつ血像が著しい所見であつた．やや年長例では，類洞壁の膠原質の増加，さらに初期うつ血性硬変に至る像も観察できる．心室中隔欠損症では，肝の脂肪化がほとんど毎常みられ，生後1年以上の例では肝のうつ血の所見も加わつてくる．本症における肝うつ血の像は，肺流床抵抗，右心系への圧負担の増加という新しい局面の組織学的表現として理解しうる．

(4)　先天性心疾患の破綻の様式は，大別すれば次の3群に分けられる．第1は心室中隔欠損症における，肺内血流調節の不全による急性肺滲出であり，第2は，肺動脈弁口閉鎖，肺静脈還流異常，動脈管開存に大動脈

の coarctation の加わつた例などにおける，低圧系への異常血量負荷によつていわゆる右心不全の表現をとるもの，第3は，ファロー四徴症，年長の大血管転位例などにおける偶発的な破綻様式である．もつとも頻発し，かつ致命的な効果を示すものは肺滲出であり，肺高血圧群における死因のうち大きい比重を占める．

論 文 審 査 の 要 旨

本論文は先天性心疾患による自然死例の臓器所見を検索し，破綻の諸様式を明らかにし，とくに急性肺滲出，右心不全などの発生条件について興味ある知見を得たもので，学術上価値ある論文と認める．

主論文公表誌

先天性心疾患の自然史に関する病理解剖学的研究．

東京女子医科大学雑誌　第42巻　3号　183～196頁（昭和47年3月25日発行）

副論文公表誌

1）剖検からみた癌の血行性転移．

癌の臨床　15（9）　779～ 784頁(1969年9月)

2）3胎児の剖検例に見られた心血管体制の異常について．

心臓　2（3）　337～ 342（1970年3月）

3）いわゆるSMONに相当する脊髄および視神経病変を示した2剖検例について．

東女医大誌　40（5）　325～ 332(1970年5月)

4）肝硬変の結節の大きさについての組織計測的考察．

東女医大誌．41（8）　583～ 587(1971年8月)

5）剖検時実測した胸腔容積値について．

東女医大誌．41（9）　682～ 688（1971年9月）

6）An Autopsy Case of Mixed Dust Pneumoconiosis（混合塵による塵肺の1剖検例）．

Acta Pathologica Japonica　22（4）（1972年11月）